

をさなここち(幼心地) その六

飴だま

南出喜久治
平成22年8月14日記す

今回も童話を取り上げます。それは、新美南吉の『飴だま』（新美南吉全集）です。非常に短い童話ですので、全文を引用します。

春のあたたかい日のこと、わたし舟にふたりの小さい子どもをつれた女の旅人がのりました。

舟が出ようとすると、

「おおい、ちょっとまってくれ。」

と、どての向こうから手をふりながら、さむらいがひとり走ってきて、舟にとびこみました。

舟はでました。

さむらいは舟のまん中にどっかりすわっていました。ぽかぽかあたたかいので、そのうちにいねむりをはじめました。

黒いひげをはやして、つよそうなさむらいが、こっくりこっくりするので、子どもたちはおかしくて、ふふふと笑いました。

お母さんは口に指をあてて、

「だまっておいで。」

といいました。さむらいがおこってはたいへんだからです。

子どもたちはだまりました。

しばらくすると、ひとりの子どもが、

「かあちゃん、飴だまちょうだい。」

と手をさしました。

すると、もうひとりの子どもも、

「かあちゃん、あたしにも。」

といいました。

お母さんはふところから、紙のふくろをとりだしました。ところが、飴だまは一つしかありませんでした。

「あたしにちょうだい。」

「あたしにちょうだい。」

ふたりの子どもは、りようほうからせがみました。飴だまは一つしかないのです、お母さんはこまってしまいました。

「いいこたちだから待っておいで、向こうへついたら買ってあげるからね。」

といっぺきかせても、子どもたちは、ちょうだいよオ、ちょうだいよオ、とだだをこねました。

いねむりしていたはずのさむらいは、ぱっちり眼をあけて、子どもたちがせがむのを見ていました。

お母さんはおどろきました。いねむりをじやまされたので、このおさむらいはおこっているのにちがいない、と思いました。

「おとなしくしておいで。」

と、お母さんは子どもをなだめました。

けれども子どもたちはききませんでした。

するとさむらいが、すらりと刀をぬいて、お母さんと子どもたちのまえにやってきました。

お母さんはまっさおになって、子どもたちをかばいました。いねむりのじやまをした子どもたちを、さむらいがきりころすと思ったのです。

「飴だまを出せ。」

とさむらいはいいました。

お母さんはおそるおそる飴だまをさしました。

さむらいはそれを舟のへりにのせ、刀でぱちんと二つにわりました。

そして、

「それね。」

とふたりの子どもにわけてやりました。

それから、またもとのところにかえって、こっくりこっくりねむりはじめました。

どうですか。すばらしい童話でしょう。母が子どもを危害から守ろうとする本能、さむらいの凛々しさなどがよく表現されています。新美南吉の童話には、このような人情味あふれる作品が多いのです。他にも『ごん狐』という心打たれる童話もあります。いちど読んでみてください。

さて、今回、どうして『飴だま』を取り上げたかというところ、この話は、単に童話というよりも、私たちが、これからの世の中を希望に満ちた豊かなものとするための知恵の原型が描かれているからです。

それは、羊羹（ヨウカン）理論と云いまして、二人の子どもにもヨウカンでも飴だまでもよいですが、それを半分に分けて、どちらからも不平不満がでない方法の知恵のことです。

「飴だま」の話では、権威と信頼のあるおさむらいが分けてくれましたが、お母さん自身がおさむらいの発想と同じように、飴だまを二つに割って二人に分けたとすれば、子どもたちは満足したのだと思います。

しかし、もっと子どもが大きくなってくると、それでは満足しないことがあります。兄弟姉妹の場合なら、兄や姉が多い方（大きい方）を弟や妹に譲ってあげれば、兄弟愛の麗しい関係になります。しかし、これが兄弟姉妹ではなく、他人との間で分けるとなると、そうは行かないことがあります。半分に切った（割った）としても、どちらかが少し多い（大きい）と云って、けんかになるかも知れません。そんなとき、このヨウカン理論を使うのです。

それは、二人にジャンケンでもさせて、どちらか一人にヨウカン（飴だま）を半分に切る（割る）ことをさせ、もう一人には、半分に切った（割った）後に、真っ先にそのうちから好きな方を選ぶことにするのです。

そうすると、半分に切る（割る）役目の人は、もし、どちらかが多い（大きい）ようにしてしまうと、その多い（大きい）方がもう一人に取られてしまうので、一生懸命に真半分に切ろう（割ろう）とします。そのようにすれば、公平で公正な分配ができるのです。これを社会全体に応用すれば、政治や経済の混乱はなくなります。みなさんも、この「飴だま」の話（はなし）を切っ掛けにして、ヨウカン理論をよく理解し、直ぐにでも周りの人や友達に話したり、それを実践してみてください。